

第3回「川に学ぶ」体験活動全国大会の開催（案 作成資料）

1. 河川環境管理財団への申請内容とそれにそった方向性

（目的）

水の共有化・運命共同体という川を介した地域・好縁コミュニティの回復を試み、体験学習・環境教育＝学習、および全国各地での実践成果等の公表を共有し、これを踏まえた課題の抽出と「川に学ぶ社会の形成」への条件・方法の整理を行い、新たな仮設に基づくモデルの提示を社会実験的に行う。

川という公共空間を共有化した「川の環境・文化享受能力」支援のシステムを如何に作るか、また、これからの日本の新しいライフスタイルを作り出すきっかけにしよう。

（事業の概要、効果）

全国各地・・・学校や団体等を募り、

初日——情報交換（発表）を主体的に組み立て、

二日目は研究・討議を主体的に組み立てる。

地域が支える教育の具体的な枠組み、

川での安全対策やこれを支援する指導者の人間像

（初日）

○ 基調講演・・・地元・・・YMCA、鳴門教育大（村川先生）、吉野川の主、達人

○ テーマ別情報交換会（各団体等からの発表）

コーディネーターが責任もって実行する

地元の人を登場させる

（事務局・・・総合コーディネーター・・・

- ・ 地域が支える教育（知識・情報川をステージにした総合学習を中心に）
- ・ 川での安全と指導者像（機会の提供、基礎講座、初級講座の開催を中心に）
- ・ 川での体験活動の実践（魅力ある川・・・プログラムを中心に）
- ・ 川での体験活動の運営（支援・・・資金、体制、人材を中心に）
- ・ 吉野川へ集まる四国「川に学ぶ」全員集合 分科会・・・中村

○ 魅力作り

○ 知識・情報

○ 接する機会の提供

○ 国、県の支援

全大会での発表（審査委員会）

報告 + 優秀の発表報告・・・

パネリストにおいて、普遍化のための方策をまとめさせる・・・方向だし

——外の会場を使う。（押さえて、小学校体育館）

○ポスターセッション

・ポスターセッションによりテーマ別の隙間を埋めるように工夫する

（二日目）

○地元での体験活動に参加

- ・吉野川の清掃活動に参加
- ・カヌーの乗船とレスキュー体験
- ・生き物調査他

○研究会（全体会方式）

- ・初日のテーマ別情報交換から各2ないし3団体が課題を発表
- ・課題に基づき、その解決方法を討議する

*参加費を徴収するものとし、参加費は、昼食と配布資料等に充当する。

*参加人員については、大人250名、子ども150名の合計400名を予定
(創意工夫、特記事項)

この体験活動研究会は、河川審議会川に学ぶ小委員会の「川に学ぶ」社会をめざす提言に基づき、いわゆる市民レベルが自発的にその途を探求するものであるが、こうした事例は類稀である。

2003.05.19. at 河川環境管理財団

「川に学ぶ」交流全国大会 要綱作成打ち合わせ (対 荒関・中村・小谷)

予算・・・500万円・・・決定

時期：8月2・3日・・・決定

場所 徳島県 吉野の川

次回 徳島での打ち合わせ・・・午前10時(10時前に中村さんところへ行くこと)

5月31(土) 徳島で実行委員会

今年の目標：

「川に学ぶ」社会の形成が河川審議会小委員会で答申(平成10年10月)されてから5年、小委員会研究会が答申されてからで3年目が経つ。民間で「川に学ぶ」交流全国大会が持たれて3回目である。一部では、これまで、川での市民レベルの活動はどちらかというと、東高西低といわれてきた。しかし、この市民による「川に学ぶ」全国交流大会の積み上げによって、著しく各地での活動が活発になってきた。今年は、イベント形ではあるが仮設—モデルの提示を明確に示す社会実験であることを認識しつつ、こまで検討を加えてきた、河川審議会「川に学ぶ」小委員会答申および研究会の4つの方向性をまとめる大会としたい。

1. 基調講演・・・

2.・・・発表 + ポスター・・・ブロック別にて

予算をまして、足りないところはそのブロックです。

日本全体で応援するように・・・河川事務所で応援してもらう

○発表・・・ ブロックの仕切りで、1箇所の先進事例

プラス2つの一般公募事例・・・とする。

ブロック長・・・予算も エントリー数

北海道・・荒関・大田
東北・・新井・高橋マリ
北陸・・相良・設楽したら
関東・・山道・大野
中部・・原・三重、川上
近畿・・足立、福広
中国・・小谷・高木
四国・・中村
九州・・浜崎・駄々井

1 日目舞台発表 ブロックから1つ + 一般公募から2つ = 10の発表
分科会でのブロックの性格付け

団体の掘り起こし、をつれてくる。

選べないブロックもある。

一般公募枠からも選べるように、「川の日ワークショップ」に出でこないとこを

○ポスターセッション

四万十川、吉野川（大谷さん）とも連携を

新町 ほかでできている

地域に広がるように、四国に広がるようにする・・ブロック化

6 月中に打ち出し、

報告書の件、・・コンサルタントにはじめから頼んでおく。

藤芳： 500 万円

○ 工夫した、頑張ったもの

○ ラックホーラム・・常連やでなく、経験者は助言者として、
コーディネーターを若い人の掘り起こしで
新しい団体がこの場に来て、新しい人が増えることを、

今後：

ブロック長

コーディネーター

ラックの理事が現地入りして、実行委員会に入って、地元とつめる

5・31、6・1に、

教職の学生をボランティアで、

事務所、と局とで・・徳島工事（石川）、県、局の方と話を（佐藤さんが連絡）

整備局・・部長に 鶴塚さん

ブロック別・コーディネーター・・斉藤事務局長がまとめてー中村さんへ

(テーマ別分科会)

テーマ	コーディネーター&スピーカー		連絡 担当	結果	備考
	氏名(所属)	TEL			
川での体験活動の実践(魅力ある川・・・プログラムを中心に)・・・原	報告者・・・原				
地域が支える教育(知識・情報川をステージにした総合学習を中心に)・・・太田	報告者・・・太田				
川での安全と指導者像(機会の提供、基礎講座、初級講座の開催を中心に)・・・小谷	報告者・・・小谷				
川での体験活動の運営(支援・・・資金、体制、人材を中心に)・・・	報告者・・・藤芳				
吉野川へ集まる四国「川に学ぶ」全員集合分科会・・・中村	報告者・・・中村				

注) 分科会コーディネーターは事務局用意の社会実験用まとめ用紙にて統一して取りまとめる

○発表・・・ ブロックの仕切りで、2・3箇所の先進事例

地域	テーマ	発表者	連絡担当	結果	備考
北海道					
東北					
北陸					
関東					
中部					
近畿					
中国					
四国					
九州					
一般公募(2つ)					

(全大会割り振り)

ブロック長・・・予算も エントリー数

北海道・・・荒関・大田

東北・・・新井・高橋マリ

北陸・・・相良・設楽したら

関東・・・山道・大野

中部・・・原・三重、川上

近畿・・・足立、福広

中国・・・小谷・高木

四国・・・中村

九州・・・浜崎・駄々井

1日目舞台発表 ブロックから1つ + 一般公募から2つ = 11の発表

分科会でのブロックの性格付け

団体の掘り起こし、をつれてくる。

選べないブロックもある。

一般公募枠からも選べるように、「川の日ワークショップ」に出でこないとこを

(必要経費の概算と説明)

(単位：円)

項目	内 容	単位	数量	金 額
情報交換会				
・会場設営費	会場借上、看板、器材使用料	式	1	500,000
・講師関係	基調講演及びテーマ別講師等 5 名 (謝礼、旅費、交通費)	式	1	360,000
ポスターセッション				
・ポスター製作費	製作費@5,000 円 (50 団体予定)	部	50	250,000
・コーディネーター	16 名 (謝礼、旅費、交通費)	式		810,000
体験活動	*参加対象は主に子ども		1	
・講師関係	RQ3 公認インストラクター 2 名 (謝礼、旅費、交通費)	式	1	300,000
・体験サポーター	RQ3 の SFR 保持者 20 名 (謝礼、旅費、交通費)	式	1	600,000
・器材借上費	カヌー、PFD、スローバッグ他	式	1	300,000
報告書作成				
・収録関係	フィルム、ビデオ、テープ等	式	1	30,000
・編集関係	テープ起こし、現像費等	式	1	150,000
・製本関係	製本費	部	1,000	500,000
発表参加者旅費				
・北海道地区	交通費、宿泊費 *参加枠設定	式	1	900,000
・東北地区	交通費、宿泊費 *参加枠設定	式	1	740,000
・関東地区	交通費、宿泊費 *参加枠設定	式	1	890,000
・近畿、中部地区	交通費、宿泊費 *参加枠設定	式	1	650,000
・中国、四国地区	交通費、宿泊費 *参加枠設定	式	1	600,000
・九州地区	交通費、宿泊費 *参加枠設定	式	1	730,000
・地元 (徳島県)	交通費	式	1	500,000
事務費関係				
・開催パンフ	パンフ作成	式	1	200,000
・通信費	切手、封筒等	式	1	180,000
・配布用資料作成費	参加者総勢 400 名を予定	部	400	400,000
・消耗品		式	1	30,000
・準備会議費	実行委員会開催費 (旅費弁償)	回	3	210,000
・連絡調整費	講師との連絡調整費他	式	1	170,000
合 計				10,000,000

注) 金額については消費税を含む

備考 記入例等については記入要領を参照してください。

スケジュール（事業の竣工時期、実施時期）

（国民的啓発運動の副読本等の作成は助成の金額以内で2ヶ年にわたることが可能ですが、その旨分かるように記述して下さい）

作業項目 / 月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
準備	←→											
器材調達	←→											
参加者募集	←→											
大会の開催			↔									
報告書の作成			←→									

備考 ・ ←→ は作業予定期間を示す

10. 河川整備基金助成実績

助成事業名	年度	金額 千円
一回、二回大会の実績を計上するかどうか検討要		

備考 過去10ヶ年の助成実績を必ず記入して下さい。

第3回川に学ぶ体験活動全国大会実行委員会・規約（案）

（名称）

第1条 この会は、第3回川に学ぶ体験活動全国大会実行委員会（以下、「実行委員会」という。）と称する。

（目的）

第2条 実行委員会は、川を介した地域コミュニティの回復や心性の育み、体験学習や環境教育等における川の有効性にみられる川に学ぶ社会を一層に進展させるには、全国各地での実践に基づく成果等を公表・共有し、これを踏まえた課題の抽出と整理を行う中から、具体的な活動指針を見出し普遍的な活動へと繋ぐため、第3回川に学ぶ体験活動全国大会（以下、「大会」という。）を開催することを目的とする。

（事業）

第3条 実行委員会は、第2条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- （1） シンポジウム等の開催
- （2） 普遍化のための交流事業
- （3） 施策の形成
- （4） その他、実行委員会の目的達成に必要な事業

（組織）

第4条 実行委員会は、川での体験活動等を行っている団体及び個人、大会の開催に賛同する団体及び個人で構成する。

2 実行委員会に加盟した団体及び個人は、すべて実行委員とみなす。

（役員）

第5条 実行委員会には次の役員を置く。

- （1） 実行委員長 1名
 - （2） 副実行委員長 3名
 - （3） 運営委員長 1名
 - （4） 副運営委員長 2名
 - （5） 大会事務局代表 1名
- 2 役員を選出は実行委員の互選によるものとし、任期は大会の清算業務が終了する日までとする。
 - 3 実行委員長は、会務を総理する。
 - 4 副実行委員長は、実行委員長を補佐し、実行委員長に事故あるときは、実行委員長の職務を代理する。
 - 5 運営委員長は、大会の運営を総理する。
 - 6 副運営委員長は、運営委員長を補佐し、運営委員長に事故あるときは、運営委員長の職務を代理する。
 - 7 大会事務局代表は、実行委員長の命を受けて事務を処理するとともに、実行委員会の収入・収支を経理する。

(監査)

第6条 実行委員会には監査2名を置き、会計処理を監査する。

2 1名は実行委員から互選し、1名は外部から登用する。

(事務局)

第7条 実行委員会の主たる事務局は、特定非営利活動法人「新町川を守る会」事務局に置く。

(会議)

第8条 会議は、実行委員長が必要に応じて召集する。

2 会議の議事は、出席者の過半数をもって決する。

3 実行委員会の円滑な運営のため、必要に応じて部会を設置することができる。

(会計)

第9条 実行委員会の経費は、次をもってあてる。

(1) 実行委員会加盟団体賛助金

(2) 助成金、補助金

(3) 寄付金その他の収入

2 実行委員会の会計は、実行委員会発足の日より解散の日までとする。

(解散)

第10条 実行委員会は、第2条の目的を達成し、これに付随するすべての庶務が完了したときは速やかに解散する。

(その他)

第11条 その他、この規約に定めるもののほか、実行委員会の運営等に必要な事項は、会議を開催して決定する。

附 則

この規約は、平成15年4月1日から実施する。